

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071700571		
法人名	有限会社 グループホームみんなの家		
事業所名	グループホームみんなの家		
所在地	福岡県直方市大字上頓野3635番地1 (電話) 0949-26-6808		
自己評価作成日	平成 25 年 6 月 27 日	評価結果確定日	平成 25 年 9 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者と職員の関係が深く、家族と同じような付き合いをさせてもらっている。認知症の方がストレスを感じない様に、自由に生活してもらい、言葉による抑制をしない様に気をつけている。トイレも個別の排泄パターンで誘導しなるべくオムツを使わない様に努めている。個別に関わることも大切にしており、一人ひとりが笑顔でその人らしく生活出来る様に、職員みんなで支援している

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 25 年 7 月 23 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、緑が多く生活道路を挟んで川が流れる静かな山里の中に立地する平屋建てとなっており、共用型認知症対応型通所介護（認知症デイ）も併設運営されている。事業所では、利用者が家庭と同じように自由に行動し自由に意思が表明できることを心がけ、職員は笑顔をもって自立を助け利用者の笑顔を引き出すような支援を心がけている。食事は地元の食材を利用し、内容を充実させることにも力を入れている。地域の困りごとにも目を向けており、近隣の事情のある高齢者へ弁当を毎日届けたりしている。地域活動は色々行っているが、小学生に対する認知症の学習には寸劇を行って理解を容易にしている。職員に対する研修や指導も計画的に行われている事業所である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日ミーティング後に理念を唱和し業務に入っている。	理念に地域密着型の視点があり、毎朝事業所の理念を職員全員で唱和し、更に管理者が理念について噛み砕いた説明を行うなど、日々の実践に活かされるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はないが避難訓練では協力を得ている。隣の方は家の中から施設を見守ってくれている。雨が降り出したことに気づいていない時は洗濯物を取り込むよう教えてくれる	地域住民が気軽に訪問や相談ができるよう日頃から挨拶を交わしたり住民との交流を行っている。地域の集会や行事には可能な限り参加し、婦人会活動の場として提供し利用者にも喜ばれている。また、小中学校対象の認知症授業を行った際には理解しやすい「認知症の劇」を披露している。特別な事情がある地域住民に毎日食事を届けることも行われている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで参加した地域の方に認知症の人への関わり方について話したりしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、資料を作成し経過報告をしている。地域の方に写真を使って経過報告をして欲しいと依頼があり、家族の同意を得て写真も見てもらうようになった。火災などの災害についても話し合っており、協力を得ている。離設の可能性のある方も情報も流し、協力依頼している	2ヶ月に1度開催する運営推進会議には、地域の主だった方々が参加しており、サービスの状況、外部評価についての報告や話し合い、知見者による勉強会などが行われている。意見はサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で行政の方へ話をしたり、必要な場合は電話や市役所へ行き話をしている。施設のパンフレットを置いてもらったり、施設の入居者の欠員の出た時も連絡している	日頃から電話相談や行政窓口に出向き、市の担当者や協力関係を築くように取り組んでいる。共用型デイサービスの運営や業務上の取り組み、事故報告を伝えながら運営上の不明な点を相談して助言を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設のキッチンに身体拘束の具体的な行為を掲示している。また年に1回職場内研修で身体拘束の研修を行い勉強している。目に見える身体拘束だけでなく、言葉による抑制（スピーチロックなど）もしない様に努めている。施錠も夜間以外はしていない。	一般的な戸締りの時間帯を除いて施錠しておらず、利用者は職員とともに自由に事業所を出入りしている。管理者の身体拘束廃止に関する意識の高さや熱意が利用者支援に反映されている。拘束禁止用語を含めた職員へのきめ細かい指導を行い、職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	年に1回職場内研修で勉強している。キッチンに虐待の定義を掲示し、いつでも見れる様にしている。入浴時など全身状態を観察し、あざなどないか、みんなで気をつけている		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一回職場内研修で勉強している。今のところ対象者はいない	管理者はグループホーム協議会にて権利擁護・成年後見制度の研修を受け、全職員に伝達研修を実施している。利用者家族に対しては、家族会や必要時に個別的に制度の説明を行い活用できるように支援している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を読みながら、ゆっくりと時間をとり説明している。わからない所はないか尋ねる事も忘れずに行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族の会などで意見を求めている。また面会時等しっかりコミュニケーションを取り、お互い話しやすいような関係作りを意識している。入居者からの要望がある時は出来る限りその要望に沿えるように努力している。	家族は運営推進会議及び年4回開催される家族会等で意見や要望を表す機会がある。日常的にも要望を聞いており、運営の協力を得たり情報交換などを行っている。家族からはケアプランの説明を求められたり、記録を公開した勉強会等も行われている。また、利用者の写真を公開する同意についても家族と話し合いが行われている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見を出しやすい様な雰囲気作りに努めている。月1回の職員会議では、職員全員に何か意見要望を言ってもらう様にしている。また職員からの意見、要望が出た時は可能な限り反映させる。また言われたらすぐアクションを取る様に努めている	毎月の会議で一人ひとりの意見や要望を聞く仕組みがあり、管理者は日頃から何でも遠慮なく話すよう伝えている。新任者の夜勤が不安という相談には、安心して勤務ができるように対応している。自己評価は職員全員で取り組み、管理者がまとめたものを更に職員が確認する作業を行っている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	頑張っている職員へは、可能な範囲で給料に反映させ、職員のモチベーションをあげるように努めている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用条件は入居者を大切にしてくれるか、を基準に考えている。求人広告にのせる時も年齢性別など載せていない。職員それぞれ、得意な事で入居者が楽しく過ごせるようにしてもらっている。また小さな子供がいる職員も子ども連れでも勤務可能としている	職員採用に当たっての差別的な制限はない。やる気、優しさ、家庭の仕事の延長として楽しく仕事ができる人、加えて夜勤ができる人材を選考基準に挙げている。定年退職後も就業意欲があれば再雇用が可能となっている。職員の教育訓練への参加の機会もあり、職員がその能力を発揮できるよう配慮されている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年1回、職場内研修で「人権」について学習している。また日頃のケアの場面でも、利用者に対し、一人の人として対応するよう細かく気づいた事を職員に伝えている。	管理者は職員全員に対して人権教育に関する内部研修を行っている。利用者の人権を尊重し、プライバシーを損なわない支援や虐待防止等啓発活動に取り組んでいる。職員は利用者に対して自立を促しながら、いつも笑顔で接し、優しく支援するよう取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内は、みんなに見てもらい、参加を呼び掛けている。2年以上勤務している職員へは認知症介護実践者研修へ参加してもらおうよう声をかけている。また、事務所にいろんな本を準備し、気になった事は調べられるような環境を整えている		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入っていて、研修会や交流会で他のグループホームの方と話す機会を設けている。また管理者が協議会の役員、認知症研修のファシリテーターをしているので、他の事業所の方と密に情報交換できている		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初は特に時間をかけて話をしたり、様子を見て何が困っているか観察して、情報を集め、職員全員で共有できる様にしている		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、面会時にしっかり話を聞いている。出来るだけ希望に添える様に職員と頑張っている。話す機会を多くすることで家族に話しやすい環境を作っている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と面話し話をする。何が出来てどんな困りごとがあるか把握する。また居宅のケアマネさんからも情報を頂く様にしている		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を家族のように思い一緒にワイワイガヤガヤ楽しく生活出来る様に努めている。入居者と一緒に掃除やご飯作り、散歩などしている		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会がなくなる様に、利用料の支払いは、施設に持って来てもらっている。職員が家族の中に入って話をすることもあるが、家族と入居者だけの時間も大切にもらっている		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の会や面会時等で家族から本人が昔行っていた場所を聞いたりしている。可能な場所であれば、ドライブで立ち寄りしたりしている。	センター方式を駆使しながら、馴染みの環境や本人が好む分野の話をしつつ、若い頃からの行動様式など上手く聞く事が出来ている。また、本人の外出支援を兼ねて昔馴染みの知人との待ち合わせ場所まで送迎なども行われている。更に、地域での食事会にも参加できる様に職員が同行するなどの支援も行われている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく部屋にこもらない様、居室にいる入居者にはさりげなく声掛けしている。無理やり出てきてもらうことはせず、居室で一緒に話をしたりもする。入居者同士の関わりも大切に、トラブルが起きる可能性のある場合は、職員がすぐ対応できる様見守っている		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のため退去した方でも、家族本人の許可があれば、お見舞いに行かせてもらっている。また、亡くなってしまった場合は通夜、葬儀へ参加、お別れをする。家族の許可次第だが、週参り初盆一周忌まで、お参りさせてもらい、家族と本人様の思い出話をしている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	なるべく本人のペースで生活してもらっている（起床、就寝、食事など） 食事の時間も、食べたくない時など時間を置いて声掛けしている。	時間が決められた生活様式にはしておらず、「本人がなすがまま」の行動様式が活かされている。また、本人の意向把握が難しければ、家族に意向の代弁を依頼している。原因がはっきりしない時でも、利用者の味方になった視点からの事後対応がなされている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族にセンター方式を記入してもらい、情報を得ている。また面会時などにも情報収集をしている		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ノートに入居者の様子を書き、職員は把握している。重要な事は、別のノートに書き留めみんな確認している		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、担当職員を中心にモニタリングを行っている。家族、本人にも意向を聞き、プランを作成している	介護計画作成には、事前の面接時に意向や要望などの聞き取りを行い、これらが活かされた計画書になっており、本人及び家族にも説明、同意もなされている。また「本人が行いたい事をさせる。」を原則に計画作成に取り掛かっている。更に、心身の状況に合わせて、その都度の見直しも行われている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ノートに細かく記録し、その時の様子や気づいた事を残している。大切な事、すぐにみんなに伝えたいことは、別のノートに残している		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会に行きたくても、車の無い方など、連絡を頂ければ送迎を行っている。 誕生会には家族をお招きして一緒に昼食を食べてもらっている。 担当職員のアイデアで個別ケアを実施しており、日頃出来ない楽しみを提供できる様に努めている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	離設の可能性のある入居者の情報を運営推進会議でお知らせし、地域の方にも気づいてもらうようにした。 時々商店街をブラリと散歩して昔を思い出してもらっている		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、家族や本人が希望する病院を決めている。基本的に施設のかかりつけ医以外の定期受診は家族にお願いしているが、必要場合は施設の付き添いもしている。眼科、耳鼻科、皮膚科などの受診は施設が対応している	家族が受診に同行出来ない時には、職員が付き添いを行っている。職員が医師から指示を受けた内容については、家族や他の職員にも指示された内容を伝えて適切な支援が出来る様に周知がなされている。また、指示内容の見落としが無い様に、記録にも残す様になっている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違うと思ったことは看護師へ報告して指示を受けている。時々看護師に勉強会を開いてもらい、勉強する事もある		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	可能な限りこまめに面会に行き、本人に顔を見せ安心してもらっている。また入院時に家族に了解を得て、家族・医師の話に参加して入居者の情報を伝えたり、面会時に情報をもらえるようお願いしている。 入院時認知症が進行しないようなるべく早めに退院できる様依頼している		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、「重度化看取りに関する同意書」を説明し同意を得ている。入居時になかなか看取りについて家族がイメージできない為、重度化した時にもう一度「看取りに関する同意書」をお願いしている。 面会時、病気の時等家族・医師と話をし希望を聞いている	重度化・看取りに関する同意書に従い、医師の指示、判断に従った対応をしている。また、早期発見・治療を目指し、こまめな対応や状態観察もなされている。更に、家族の看取りに対する方針を記録物に残し、職員全体で伝え忘れや共有の不足をおぎなえる様に努めている。増悪など状態の変化については、「重要事項ノート」を独自に事業所で作りこちらも情報の共有に努めている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	発熱時、異変時などのマニュアルを食堂に掲示している。 23年11月に消防署の方に来てもらい、施設で救命講習を行った。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	屋外にサイレンを設置し非常時に協力してもらえ体制を作っている。 避難訓練後、地域の方に身体的に重度な方の移乗の仕方など体験してもらおう勉強会を行ったこともある	毎年2回の避難訓練がなされている。また、災害防止訓練も毎年なされている。更に、消防署との合同訓練実施の際には、消火器を使った消火訓練もなされている。事業所内に、緊急時に必要な飲料水・食糧は備蓄されている。	防寒着や毛布など寒さをしのぐ防寒具等が無い ため、今後は季節物の準備等の充実した備蓄が期待される。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者は職員の業務中に気になる行動や声掛けなどあった場合は指導している。 年に1回、職場内で勉強会を実施して、認知症の方へのプライバシーについて演習をしながら考えてもらい、日頃の業務を振り返ってもらっている	職員は利用者の名字にさんをつけ、「〇〇さん」と呼ぶように周知が図られている。また、トイレへの声かけは、問いかける様な感じの誘導がなされている。更に、他の家族等が利用者の事について聞かれてもプライバシー保護の観点から話さないよう周知が図られている。プライバシー保護に関する研修実施もなされている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物で出かけた時は一緒に選びながら何が食べたいか聞いている。自分の思いをうまく伝えられない方へは、その方の表情や動きを観察し見守ったり、必要な場合は声掛けや支援をしている		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理者は日頃から、業務優先ではなく入居者優先するように職員へ指導している。なるべく手を出さずに本人がしたい事を本人のペースで出来る様に安全面に配慮しながら見守りしている。 細かい行事は作っておらずその場その時の入居者の様子を見て動いている		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の資格を持った職員が、丁寧にカットしてくれている。施設カットではなく、本人の昔をイメージしておしゃれに仕上げてもらっている。美容室に行きたい方はお連れしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に何日か入居者と職員と一緒に食事を作る機会を設けている。その他、ネギそろえやつくしのはかま取り等の食事の下準備の手伝いをしてもらえる。片づけも入居者の方がその気になっている時はしてもらっている	職員は利用者と一緒に同じ食事を、同じテーブルで会話を楽しみながら食べている。また、その日の献立により嗜好がそぐわない利用者には別メニューでの食事を用意されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し個々の摂取量を把握している水分の少ない時は夜勤者もしくは次の日に摂れる様職員間で引き継ぎをしている。 水分を嫌がる方へはゼリーを食べてもらったりしている		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に歯磨きするよう支援している。2週間に1回、歯科往診で歯科医師、歯科衛生士の口腔ケアを受けている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日頃から排泄表に記入し個々の排泄パターンでトイレ誘導している。尿意の無い方でも、定期的にトイレ介助をして尿取りパットの使用量を減らす努力を職員全員で行なっている。	まずは「おむつにしない、させない」を目標に、状況観察の中から排尿リズムを記録に残し、個別に対応がなされている。また、職員間同士で対応手順の共有を図り、余り過度な対応はしない様に心がけがなされている。更に、おむつを当てる際は、理由を事前に家族に説明し、同意を得ている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜中心のメニューで繊維物が多い。便秘気味の方へはスポーツドリンクのゼリーを食べてもらって水分量の確保をしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日入浴できる環境を整え、希望者や入る必要のある方が入れる様にしている。また、入浴チェック表をみて希望がなくても2～3日に1回は入浴してもらい清潔保持に努めている	入浴は何時でも利用者の意向に添える様に準備されている。利用者の都合や体調に合わせて入浴を勧める様にしているが、拒否された時には、家族に声かけを依頼したり、散歩などに誘い「汗をかいたからお風呂に入りましょうね」と声かけたり、利用者の趣味や嗜好を把握してその内容を利用者に向けて投げかけながら入浴を誘導したりしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動し夜間ぐっすり眠れるという生活リズムが整う様気をつけている。昼間から居室で寝ている方へはそのままにせず、こまめに声掛けし覚醒状態を保ってもらう。アロマオイルを使って香りでリラックスできる様にしている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の管理の元、飲み忘れ、誤薬防止のため2名で確認し合う（指差し確認）薬の重要性について、薬剤師さんの勉強会を実施して薬に対する怖さを学んでいる		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや廊下のモップ掛け、花の水やり、料理の下準備など、出来る事をしてもらっている。無理に進めることなく、本人が自分の意思で手伝いたい時にしてもらっている。外出を好まれる方が多いので、目的地がなくてもウロウロドライブに出かけ、世間の見物や季節の花を見てもらっている		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者が外に出た時は、後ろからさりげなく付き添い一緒に散歩している。個別ケアとして担当者が企画して、ふだんなかなか連れて行けない所へお連れしている。個別ケアの中で時々家族に協力してもらい一緒に出かけることもあるが、まだ一部の家族のみとなっている	職員の出勤数が多い日にはなるべく外食や買い物に誘う様にしている。また、家族の協力で本人の誕生日には居酒屋で会食をしたケースもあり、希望に添って外出できるよう支援に努めている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金に関してはトラブル防止のため所持してもらっていない。どうしても手元に必要な方に関しては、家族に話して、数千円のみ所持してもらっているが基本的に管理者が管理して、お出かけの時に本人が安心する事ができる様本人に渡している		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望があれば、職員がダイヤルを回し家族へ連絡し電話を代わっている。年賀状などレクレーションで作成し時家族へ送っている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室には掘りごたつを準備して座りやすくしている。床の間には季節の花を準備して施設を感じてもらっている	自宅に馴染のある物の持ち込みを認めている。また、堀コタツもあり、より家庭的な雰囲気作りがなされている。テラスなど下屋を設ける事で、暑さ対策などもなされている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室の横に居間があるので、みんなと一緒に嫌な時は居間の窓際でゆっくりしてもらっている（隣の家の庭が綺麗）		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心して出来る家具や写真を持ってきてもらい安心してもらっている。また施設に来自于からの写真等も貼っている。レクレーションで自分の書いた絵や習字も貼っている	テレビや写真、筆筒など利用者が好む物品については持ち込み許可がされており、それぞれの居室は個性的で居心地良く過ごせるように工夫されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の希望があれば、職員がダイヤルを回し家族へ連絡し電話を代わっている。年賀状などをレクレーションで作成し家族へ送っている。目線に合わせた看板を、居室入口、トイレ前に準備して場所が認識できる様になっている		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない